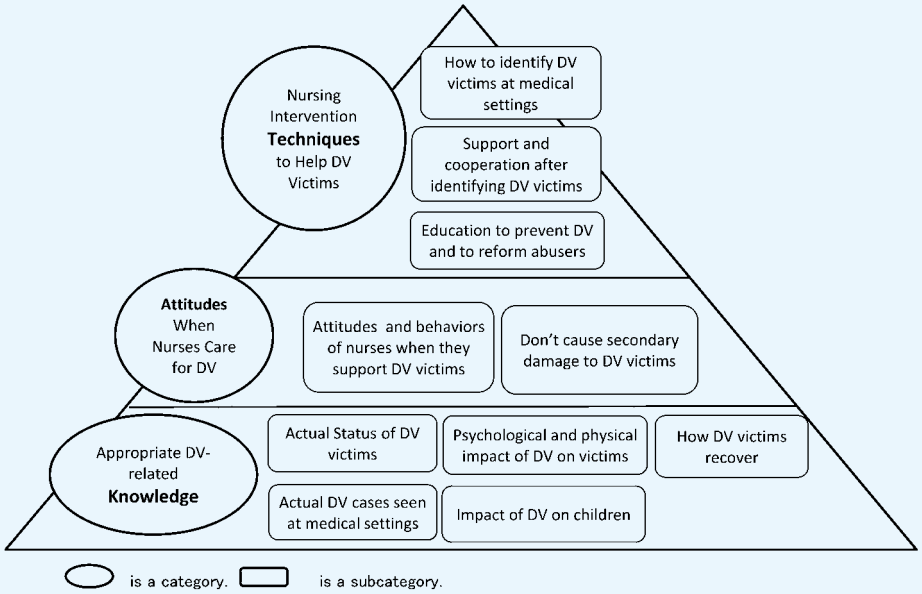
表紙・目次等

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/44359

ISSN 1346-8502



JOURNAL OF THE TSURUMA HEALTH SCIENCE SOCIETY, KANAZAWA UNIVERSITY

Vol.39 No.2 2015

金沢大学 つるま保健学会誌

金沢大学つるま保健学会 Tsuruma Health Science Society, Kanazawa University

目　　次

原　著

● 大越　扶貴 , 塚崎　恵子 , 表　志津子
保護や分離を要する高齢者虐待事例対応に不可欠な専門職の技能……（英文）……1

● 岩谷久美子 , 島田　啓子
助産学実習における分娩介助の安全管理教育モデルの試案と内容妥当性及び活用性……（英文）…　13

● 濱　　昌代 , 柴田　克之 , 少作　隆子
食事動作のための福祉用具の適合評価表の作成　―妥当性と信頼性の検討―……（英文）…　25

● 藤本由美子 , 大桑麻由美 , 中谷　壽男 , 真田　弘美 , 佐藤　　文
非侵襲的陽圧換気療法のマスクによる圧迫創傷の発生要因の抽出……（英文）…　37

● 足立さつき , 池田　泰子 , 佐竹　恒夫 , 宇佐美　慧 , 砂原　伸行 , 能登谷晶子
定型発達幼児を対象とした統語理解の発達調査……（英文）…　51

● 佐藤　　文 , 臺　美佐子 , 藤本由美子 , Saldy Yusuf, 土屋紗由美 , 井内　映美 , 田端　恵子 ,
山下　明美 , 中谷　壽男 , 真田　弘美 , 須釜　淳子
療養施設入所中の高齢者における浮腫と皮膚損傷の横断研究……（英文）…　63

● 橋本　逸子 , 木村留美子 , 津田　朗子
「気になる子ども」の保護者への対応と保育士の困難感
～保育士のフォーカス・グループ・インタビューを通して～……（英文）…　75

● 田中　正二 , 河原　　栄 , 中川　敬夫
肝細胞増殖因子の発現は骨格筋再生領域の拡大と同期する……（英文）…　85

● 木村　大介 , 竹田　徳則, 砂原　伸行, 藤田　高史, 能登谷晶子
簡易認知機能検査の妥当性の検討……（英文）…　95

● 米田　昌代 , 吉田　和枝 , 曽山　小織 , 島田　啓子
退院後の周産期のグリーフケアと地域連携システムモデルの試案……（英文）…103

● 米田　　貢 , 田端　佑樹 , 越後　亮介 , 菊池　ゆひ , 少作　隆子
運動の順序およびスキル学習のマウス・モデルとしての
3 レバー・オペラント課題の利用可能性 ……（英文）…113

● 嶋　　雅代 , 上澤　悦子
産後 1 ヶ月の母親の『母乳育児の理由』と『母乳育児の意思』との関連
―テキストマイニングを用いた分析―……（英文）…125

● 藤田　景子 , 島田　啓子
DV 被害者支援に取り組むための看護課題～医療機関における看護実践～ ……（英文）…135

● 米田　　貢 , 菊池　ゆひ , 中嶋　理帆 , 砂原　伸行
作業技術の学習機能に関わる評価指標－段通作業を用いて－…… 145

● 砂原　伸行 , 中谷　　謙
半側空間無視例における，音像の左右方向判断能力と対側逆転現象…… 155

● 砂原　伸行 , 中谷　　謙 , 能登谷晶子
両耳間時間差音像移動弁別閾値からみた，
半側空間無視患者の音像定位能力と脳損傷部位との関係…… 163

● 李　剣 , 木村留美子 , 津田　朗子
石川県に在住する中国人母親の子育て支援に関する検討…… 171

短　　報

● 津田　朗子 , 木村留美子
発達障害のある子どもの家族が一般医療機関を受診する際に抱く困難感…… (英文) …. 181

● 津田　朗子 , 木村留美子
保育所看護師の役割に関する実態調査
―問題を抱えた子どもへの支援の雇用状況による比較―…… (英文) …. 185

● 笠井津加佐 , 大竹　茂樹
介護をめぐるある家族に関する一考察 ―時系列記述と聞き取り調査を中心に― …… 191

CONTENTS

Originals

● Fuki Okoshi, Keiko Tsukasaki, Shizuko Omote
Responding to cases of elder abuse requiring protection and separation: skills for specialists ····· 1

● Kumiko Iwatani, Keiko Shimada
Content validity and utility of a proposed safety management education model for birth assistance in midwifery clinical practice ····· 13

● Masayo Hama, Katsuyuki Shibata, Takako Ohno-Shosaku
Development of an assessment tool for matching of assistive technology devices for meal support: validity and reliability study ····· 25

● Yumiko Fujimoto, Mayumi Okuwa, Toshio Nakatani, Hiromi Sanada, Aya Sato
Risk factors of non-invasive positive pressure ventilation therapy mask-related pressure ulcers ····· 37

● Satsuki Adachi, Yasuko Ikeda, Tsuneo Satake, Satoshi Usami, Nobuyuki Sunahara, Masako Notoya
A survey of the development of syntactic comprehension in neurotypical infants ····· 51

● Aya Sato, Misako Dai, Yumiko Fujimoto, Saldy Yusuf, Sayumi Tsuchiya, Terumi Iuchi, Keiko Tabata, Akemi Yamashita, Toshio Nakatani, Hiromi Sanada, Junko Sugama
A cross-sectional study of elderly individuals with oedema and skin injuries in long-term care facilities ····· 63

● Itsuko Hashimoto, Rumiko Kimura, Akiko Tsuda
A study of difficulties experienced by childcare workers in informing parents of their children's need for special care:through focus group interviews ····· 75

● Shoji Tanaka, Ei Kawahara, Takao Nakagawa
Expression of hepatocyte growth factor is synchronized with expansion of myogenesis in regenerating skeletal muscle ····· 85

● Daisuke Kimura, Tokunori Takeda, Nobuyuki Sunahara, Takashi Fujita, Masako Notoya
Validity of Brief Cognitive Function Examination ····· 95

● Masayo Yoneda, Kazue Yoshida, Saori Soyama, Keiko Shimada
Post-discharge perinatal grief care and tentative design of a regional cooperation system ····· 103

● Mitsugu Yoneda, Yuki Tabata, Ryosuke Echigo, Yui Kikuchi, Takako Ohno-Shosaku
Availability of three-lever operant task as mouse model for studying motor sequence and skill learning ····· 113

● Masayo Shima, Etsuko Kamisawa
Relevance of Reason for Breastfeeding to Breastfeeding Intention in Mothers One Month after Childbirth: Analysis using Text Mining ····· 125

● Keiko Fujita, Keiko Shimada
Challenges for Nurses with Regard to Domestic Violence Intervention: Nursing Practices in Medical Settings ····· 135

● Mitsugu Yoneda, Yui Kikuchi, Riho Nakajima, Nobuyuki Sunahara
Evaluation index of learning function in occupational therapy through Turkish rug knotting ····· 145

● Nobuyuki Sunahara, Ken Nakatani
Sound lateralization abilities and appearance of alloacusis in unilateral spatial neglect patients ····· 155

● Nobuyuki Sunahara, Ken Nakatani, Masako Notoya
Relationship between sound lateralization abilities and brain damaged area in unilateral spatial neglect patients judged from inter-aural time difference discrimination threshold ····· 163

● Jian Li, Rumiko Kimura, Akiko Tsuda
A Study on Parenting Support of Chinese Mothers Living in Ishikawa Prefecture ····· 171

Short Communications

● Akiko Tsuda, Rumiko Kimura
Distress felt by children with developmental disorders and their families when consulting at general medical institutions ····· 181

● Akiko Tsuda, Rumiko Kimura
The survey on the role of the Nursery Nurse
— Comparison of employment statuses of nursery nurses that support children with special care needs — ····· 185

● Tsukasa Kasai, Shigeki Ohtake
A Study on a Family Concerning Family Care : Through the Record and Interview Survey ····· 191

平成27年度医薬保健学総合研究科保健学専攻博士後期課程学位論文題目

（平成 27 年 9 月修了）

医療科学
学生氏名　小野　允寛
論文題目　［^{14}C］Fluciclovine（alias anti－［^{14}C］FACBC）uptake and ASCT2 expression in castration－resistant prostate cancer cells.
（去勢抵抗性前立腺癌細胞株における［^{14}C］fluciclovine（anti－［^{14}C］FACBC）取込みと ASCT2 発現量の検討）

医療科学
学生氏名　中尾　稔
論文題目　Estimation of organ doses and effective doses in image－guided respiration－gated radiotherapy.
（画像誘導呼吸同期放射線治療における臓器線量と実効線量の評価）

医療科学
学生氏名　福田　篤志
論文題目　Multiple－echo data image combination in infants with developmental dysplasia of the hip：comparison with conventional T_1－weighted and T_2－weighted imaging
（乳児股関節脱臼における MEDIC：T_1 強調画像および T_2 強調画像との比較）

リハビリテーション科学
学生氏名　宮地　諒
論文題目　Effects of static interventions on disuse atrophy of the rat soleus muscle at different sites along its longitudinal axis.
（不活動ラットヒラメ筋における骨格筋長軸部位適応変化への静的介入効果）

平成27年度医学系研究科保健学専攻博士後期課程学位論文題目

看護科学
学生氏名　市森　明恵
論文題目　Illuminance, Subjective Sleep Quality, and Psychosomatic Health in Elderly Individuals Requiring Care：A Survey of Japan's Hokuriku Region in Winter
（要支援高齢者の照度と主観的な睡眠の質と心身の健康：北陸地方における冬季の調査）

看護科学
学生氏名　大江　真吾
論文題目　What patients with pervasive developmental disorders think of and expect from nurses
（広汎性発達障害者がとらえた看護師の存在と抱いた期待）

看護科学
学生氏名　小西　佳世乃
論文題目　Investigation of the relationship between changes in mothers' perception of infant's behavior and perception of breast milk as insufficient from early postpartum to one month postpartum
（産後 1 カ月までの母親の母乳不足感と新生児のサインに対する認識の変化）

医療科学
学生氏名　小野田　農
論文題目　Optimizing signal intensity correction during evaluation of hepatic parenchymal enhancement on gadoxetate disodium－enhanced MRI：comparison of three methods
（ガドキセト酸ナトリウム造影 MRI による肝実質造影効果の評価に関する信号強度補正の最適化）

医療科学
学生氏名　東出　了
論文題目　Application of a variable filter for presampled modulation transfer function analysis with the edge method
（エッジ法における presampled MTF 解析に対する可変フィルタの適用）

金沢大学つるま保健学会誌
投 稿 規 程

（投稿資格）
1．投稿資格者は，次のとおりとする。
　一，つるま保健学会会則第５条第２項各号に定める者
　二，その他，つるま保健学会誌（以下「会誌」という）編集委員会が特に認めた者（脚注）

（投稿の制限）
2．原稿は，未発表のものに限る。

（投稿の種類）
3．原稿は，邦文及び欧文の原著，短報及びその他とし，次の内容に該当するものでなければならない。
　なお，原著の長さ及び引用文献・図表等の記載方法は，別紙執筆要領のとおりとする。
　一，原著　　独創性のある結論の明確な論文及び，学術的な価値が高いと，会誌編集委員会が認めた論文。
　二，短報　　独創的であるが断片的な研究で，研究方法，操作，技術，装置の改良，新しい試み，あるいは応用等に関し簡単に表現したもの。
　三，その他　研究，技術に関する参考資料及び解説・調査・集計・報告・症例報告等。

（倫理規定）
4．人を対象とした研究では，ヘルシンキ宣言に基づき国および所属機関等の定める倫理指針を遵守し，倫理的に十分に配慮された内容でなければならない。動物を対象とした研究では，動物の保護および管理に関する指針の趣旨に沿ったものとする。また，その旨を本文中に明記すること。

（受付期間）
5．受付期間は，別に定める。

（提　出　先）
6．原稿（原本１部，写３部）には，別紙の投稿届を添えて，会誌編集委員長に提出するものとする。

（原稿の採否）
7．原稿の採否は，会誌編集委員会が決定する。

（校　　正）
8．著者校正は再校までとし，校正刷を受領後３日以内に校正のうえ会誌編集委員長に提出しなければならない。
　なお，校正時における原稿の変更は認められない。

（著　作　権）
9．本誌に掲載された論文等の著作権はつるま保健学会に帰属する。

（発　　行）
10．会誌は，年２回（８月，２月）発行する。

（脚注）「会誌編集委員会が特に認めた者」の目安は，本会を定年あるいは異動により退職した教職員並びに金沢大学医療技術短期大学部，金沢大学医学部保健学科，金沢大学医薬保健学域保健学類，金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻及び金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻を卒業又は修了した者（なお，本学系教職員が共著者として含まれることが望ましい）また，金沢大学大学院医薬保健総合研究科保健学専攻（博士後期課程）における論文提出による博士の学位申請取扱いに関する内規の第２条の要件を充たす者とする。

平成25年　8月1日　改定

金沢大学つるま保健学会誌
執 筆 要 領

1．投稿する論文は，独創的で学術的な価値が認められるものでなければならない。
　また，国内外を問わず，他誌に掲載されたもの，掲載予定のもの，自らあるいは第三者のホームページに収載または収載予定のものは投稿できない。

2．原稿の長さは，原則として以下のとおりとする。

原　著：	邦文原稿	10000 字以内	図表を含まない
	欧文原稿	5000 語以内	図表を含まない
	（ただし，人文・社会科学系については邦文原稿 20000 字以内，欧文原稿 10000 語以内とする。）		
短　報，その他：	邦文原稿	4000 字以内	図表を含まない
	欧文原稿	2000 語以内	図表を含まない

3．欧文原稿はＡ４版サイズの用紙に周囲３cm の余白をのこしてダブルスペースで印字する。邦文原稿でワープロ使用の場合は 700 字程度（例：35 字× 20 行）をＡ４版サイズの用紙に印字し，手書きの場合は 400 字詰めの原稿用紙を用いる。

4．原稿の表紙には，表題，著者名，所属の順に記載し，欧語で５個以上のキーワードをつける。欧文の場合，タイトルは，固有名詞や記号等を除き，最初の１文字のみを大文字で記す。氏名の表記は名，姓の順とする。著者の所属の表記は筆頭者の場合無記号，共著者の所属が異なる場合はその著者名の右肩およびその所属名の冒頭に＊，＊＊ 印をつける。
　また，筆頭著者の連絡先を記載する。

5．邦文原稿には欧語の表題，著者名，所属をつける。欧文原稿には邦語の表題，著者名，所属をつける。

6．原著には 400 語程度の欧文の要旨，および 600 字程度の邦文の要旨をつける。

7．邦文原稿は原則として常用漢字，ひらがな，現代かなづかいを用い，外国語固有名詞（人名など）は原語を，一般に日本語化された外国語は片かなを用いる。
　欧文原稿は当該国人が読んで，正確，明解に理解できるものでなければならない。
　また，学位申請論文については，欧文校正責任者の証明書を付けること。

8．度量衡は，国際単位など汎用されているものを使用する。

9．論文の項目の区分は原則として下記の例に従う。
　大項目―――無記号で上を１行開け，行の第２字目に記す。
　　はじめに（Introduction），方法（Methods），結果（Results），考察（Discussion），文献（References）などが相当する。
　小項目―――１., ２. として上下を開けずに行の第２字目に記す。続いて１），２）として行の第２字目に記す。

10. 図（Figure）および表（Table）にはそれぞれ別の通し番号をつける。

11. 邦文原稿のとき図表のタイトル，説明は日本語，外国語のいずれかに統一する。

12. 写真はキャビネ大の印画紙（12cm × 16.5cm）に焼き付け，台紙に貼付する。
　図表の通し番号を記入する。図表のタイトル，説明文はまとめて原稿の末尾につけ，原稿本文中の欄外余白部に挿入位置を朱記し明示する。

13. 写真は白黒のものとするが，カラー写真の掲載は著者負担とする。

14. 謝辞は本文の末尾に入れる。

15. 文献は引用順に配列し，本文の末尾に一括記載する。外国語文献はタイプする。
　本文中の文献引用個所には著者名や引用文などの右肩に[1),1・3・6),1−5)]のように記す。参考文献は記載しない。

16. 文献の記載様式は下記の要領に従う。
　雑誌の場合
　雑誌の略語は lndex Medicus の様式に従う。
　著者名は３名までは全員記載する。ただし，４名以上の場合は３名連記の上，＿, 他，あるいは＿, et al とする。
　欧文の記載では，コロン，カンマ，は半角を用いること。

文献記載方法の例

単行本（発行場所の記載は外国の場合のみ）

吉田幸雄：図説人体寄生虫学６版，南山堂，pp^20-33, ^2002
　　半角　半角

戸塚恭一，山浦常：NEW CHART 内科（８）感染症，医学評論社, pp ^227-231, ^2001
　　半角　半角

Churukain CJ：Microwave Ziehi-Neelsen Method for Acid-Fast Bacteria, Histotechnology ASCP Press, Chicago, ^pp^184-185, ^1993
　　半角　半角　半角

雑誌

村山繁雄，斉藤祐子，金子和富，他：ブレインバンクの構築と課題，日老医誌 42：483-489, 2005

Murayama S, Saito Y: Neuropathological diagnostic criteria for Alzheimer disease. ^Neuropathology ^24:^254-260, ^2004
　　半角　半角 半角　半角

例

Moon A, Lawson K, Carpiac M, et al: Elder abuse and neglect among veterans in Greater Los Angeles prevalence, types and intervention outcomes. J Gerontol Soc Work 46: 187-204, 2006

分担執筆

山口晴保：Alzheimer 型痴呆，神経病理学（朝永政徳，桶田理喜編），朝倉書店，pp 166-172，1992

著者は論文投稿時に表紙に本文の文字数（邦文の場合は字数，欧文の場合には words 数）と図表の枚数を記載すること。

17．論文の記載様式が執筆要項と大きく異なる場合，論文は受理されないことがある。

平成 17 年　6 月　一部改定
平成 18 年　6 月　一部改定
平成 19 年　1 月　一部改定
平成 21 年　1 月　一部改定

平成 27 年度会誌編集委員会

委　員　長：木村留美子
看護科学領域：木村留美子
：岡本理恵
：多﨑恵子
医療科学領域：北村敬一郎
：馬渡一浩
：中山和也
リハビリテーション科学領域：井上克己
：砂原伸行
：三秋泰一

平成 28 年 1 月 15 日 編集
平成 28 年 1 月 20 日 印刷
平成 28 年 1 月 27 日 発行

発行者：金沢大学つるま保健学会
〒920-0942 金沢市小立野5丁目11番80号
Publishing office： Tsuruma Health Science Society,
Kanazawa University
5-11-80, Kodatsuno, Kanazawa 920-0942,
JAPAN

印刷所：株式会社 メディカルアート
〒920-0934 金沢市宝町13番1号
MEDICALART Co.LTD.,
Kanazawa 920-0934, JAPAN

金沢大学つるま保健学会誌 J Tsuruma Health Sci Soc, Kanazawa University